

八ヶ上遺跡 第26地点

遺跡名	八ヶ上遺跡
よみがな	はけうえいせき
調査地点	第26地点
主な時代	縄文時代中期後半（約4,900～4,500年前）
調査地	関沢2丁目2803-3
調査面積	280.91㎡
調査期間	令和5年12月4日～令和6年1月15日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代の竪穴住居跡8軒、土坑4基、埋甕1基</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代の土器、石器</p> <p>【概要】 当遺跡は、富士見江川と唐沢堀の合流地点近くの台地上に位置し、東武東上線を跨いで関沢1～2丁目を中心にあります。現在までの調査で、旧石器時代・縄文時代草創期～中期の遺構や遺物が確認されています。</p> <p>当地点は遺跡南端近くの崖線上で、縄文時代中期後半の竪穴住居跡8軒などが確認されました。8軒の竪穴住居跡はすべて縄文時代中期の「加曾利E式土器」が流行していた頃のもので、竪穴住居跡からは、住居入り口付近の床に設置された「埋甕^{うめがめ}」や、土器を埋めて作られた炉である「埋甕炉^{まいようろ}」が検出されました。</p> <p>また、縄文時代草創期（約1万4千年前）の「大型石鏃^{せきぞく}」と思われる石器も出土しており、縄文時代中期の集落の広がりや縄文時代草創期の人々の生活の痕跡も発見できた調査となりました。</p>



第31号住居跡と埋甕



第32号住居跡遺物出土状況



第33号住居跡出土の埋甕



出土した縄文時代草創期の大型石鏃